

## 文に変換する力を鍛える

「動画でわかる 2025年度・技術士二次試験対策」に関する動画

### ■8項目のテーマ

1. 2025年度・技術士二次試験対策の概要
2. 記述式試験の特徴を考えた受験勉強をする
3. 「“解答を書く力”を鍛える」の概要
4. 「1分で理解できる解答」の概要
5. 「1分で理解できる解答」を書く力を鍛える
6. 文に変換する力を鍛える ◀
7. 文の作成力を鍛える
8. 日常業務の中で“解答を書く力”を鍛える

1

◆ “解答を書く力”とは、以下の3つの力の総合力

- 「1分で理解できる解答」を書く力
- 文に変換する力 ◀
- 文の作成力

2

## 文に変換する力とは

- ◆ 文に変換する力とは、頭の中に浮かんだ解答を文に変換する力のこと
- ◆ 「課題として〇〇について書こう」のように解答が頭の中に浮かんだら、それを文に変換してから答案用紙に書き出す力
- ◆ 頭の中に浮かんだことを確実に変換しないと「自分が考えていたことと少し違うな」などのような変換ミスが発生する可能性
- ◆ 試験では確実に変換する

3

## 日常業務の中で鍛える

- ◆ 日常業務の中で「文に変換する力」を鍛えることが最も有効な方法
- ◆ 「文に変換する力を鍛える」とは、日常業務の中で「書く前に書き出す」という方法に慣れること(習慣にすること)
- ◆ 日常業務の中で技術文書を書くときにも、頭の中に浮かんだことを文に変換する
  - 業務報告書やメールを書くときなど

4

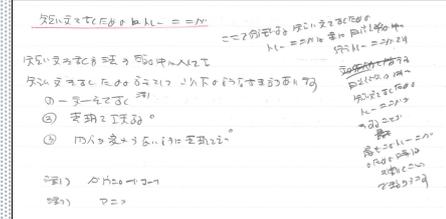
## 書く前に書き出す

- ◆ 技術文書を書くとき、頭の中に浮かんだことをメモ用紙などに一度書き出す
- ◆ 頭の中に浮かんだことを思い付くまま走り書き程度で書き出す
  - 頭の中にあることを吐き出すイメージ(短い言葉、短い文、キーワードなど)

5

- ◆ 頭の中に浮かんだことが形(文字)になる
  - 頭の中にあることを目で確認できる
  - 確認してから文に変換する
  - 確認することで変換ミスを防げる
- ◆ 書き出さずに書くと変換ミスが起こる可能性がある
  - ただし、技術文書を書く場合には変換ミスがあっても簡単に修正可能

■ 短い文を書くための方法(ノートに書き出す)



- 書き出したことを確認したうえで文に変換する
- この方法で、頭の中に浮かんだことを確実に文に変換できる

1. 検討目的

当該業務の検討目的は落石防護対策工法の選定である。令和〇年の道路防災点検で、国道△△号線の□□付近では、落石の危険度が高い箇所が存在が複数確認された。また、それらの中には、早急な対策が必要な箇所も存在した。そのため、国道△△号線を通行する車両等の安全確保のための対策実施が急務となった。そこで、当該業務では、落石防護対策工法を選定する。

- ◆ 継続することで日常業務の中で「書く前に書き出す」という方法に慣れる(習慣になる)
- ◆ 日常業務の中で常に書き出すのではなく頭の中で文に変換しにくいときだけ

試験のときにも書き出す

- ◆ 日常業務の中で「書く前に書き出す」という方法に慣れる(習慣にする)
- ◆ 慣れることで、「1分で理解できる解答」を書く場合、解答の要点と要点の説明を書く前に書き出す
- ◆ 書き出すことで、頭の中に浮かんだ解答の要点と要点の説明を確実に文に変換できる

- ◆ 試験では、頭の中に浮かんだ解答の要点と要点の説明を問題用紙の空スペースなどに書き出す
  - 頭の中にあることを吐き出すイメージ(短い言葉, 短い文, キーワードなど)
  - 頭の中に浮かんだことを形にし、それを確認したうえで答案用紙に書く

- ◆ 解答の要点は文に変換しやすいが必ず書き出しそれを確認する

在宅勤務の問題は、情報漏洩の危険性が出てくることである。会社内で仕事を行う場合には、社内のセキュリティによって会社内にある情報が外部に流出する可能性は小さい。しかし、在宅勤務になると、自宅で使うパソコンのセキュリティが会社のセキュリティに比べて脆弱になる。そのため、在宅勤務によって情報が外部に流出する危険性が出てくる。

- ◆ 「1分で理解できる解答」を書くうえで解答の要点は重要
- ◆ 要点の説明の変換ミスが発生する可能性がある

12

## 【参考資料】

- ◆ 「技術士試験対策・ダウンロードコーナー」の中の「日常業務の中で“文に変換する力”を鍛える」

13

## 次回の動画

### ■ 文の作成力を鍛える

#### ■ 解答を書く力

- 「1分で理解できる解答」を書く力
- 文に変換する力
- 文の作成力 ←

14